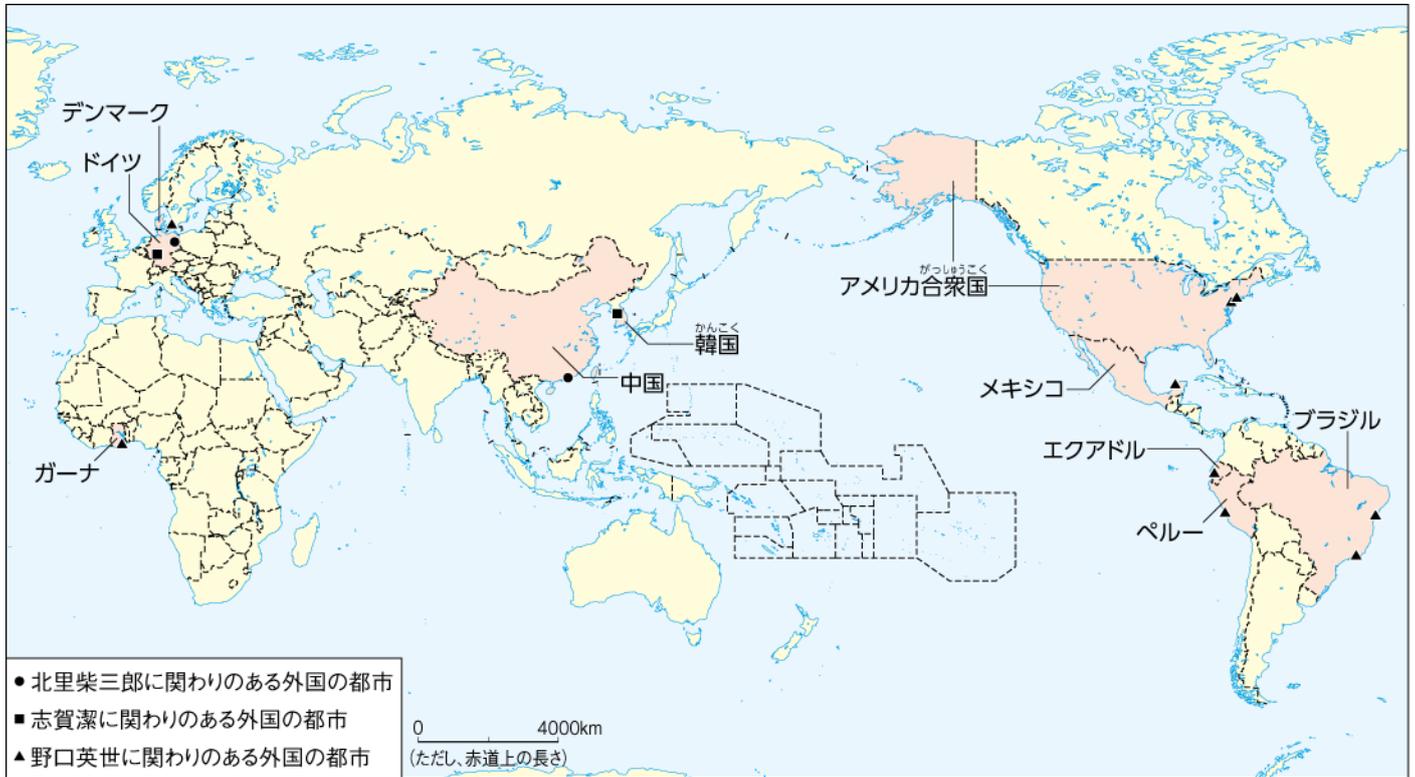


世界で活躍する日本人医学者

明治時代には、世界で活躍する日本人があらわれました。その中の一人、北里きたさと柴三郎しばさぶろうは、伝染病でんせんびょうに関する研究で、世界的に注目されました。北里は留学から帰国すると、自らの研究所を設立して、多くの研究者を育てました。



↑ア 北里柴三郎、志賀潔、野口英世が活動した国や地域

「日本近代医学の父」とよばれる北里柴三郎は、ドイツのベルリンに留学して、細菌学者コッホのもとで研究を行いました。北里は、破傷風はしょうふうという病気の治療方法ちりょうを開発して注目され、世界各国の研究所からさそいを受けました。しかし、日本の医学の発展はってんにつくしたいと、さそいを断り、帰国後は、志賀潔、野口英世のぐちひでよといった、世界で活躍する研究者たちを育てることに力を入れました。

1853年	熊本県 <small>くまもと</small> に生まれる	1870年	宮城県 <small>みやぎ</small> に生まれる	1876年	福島県 <small>ふくしま</small> に生まれる
1886年	ドイツに留学、コッホのもとで学ぶ	1896年	伝染病研究所に入所、北里柴三郎のもとで学ぶ	1898年	伝染病研究所に入所
1889年	破傷風の治療方法を開発	1897年	赤痢菌 <small>せきりきん</small> を発見	1900年	アメリカにわたり、へびの毒を研究
1892年	伝染病研究所を設立	1901年	ドイツに留学	1913年	梅毒 <small>ばいどく</small> の研究で世界から注目される
1894年	ホンコンでペスト菌を発見	1914年	北里研究所の設立に参加	1918年	黄熱病 <small>おうねつびょう</small> の原因を発見
1914年	北里研究所を設立	1920年	朝鮮(韓国)の病院の院長や医学校の校長となる	1928年	研究中に自らも黄熱病にかかり、51才でなくなる
1931年	78才でなくなる	1957年	85才でなくなる		

↑イ 北里柴三郎に関する年表

↑ウ 志賀潔に関する年表

↑エ 野口英世に関する年表